

凡 例

- ・本書は、『皮膚病中医診療学』（徐宜厚・王保方・張賽英編著，人民衛生出版社，1997）を原本としている。
- ・日本語版では，原本の各論の章立てを内容別に再編した。
- ・各論の雀卵斑・毛孔性苔癬・破傷風・熱傷の節，および附3「生薬一覧」は日本語版用に加筆した。
- ・各論中の「現代医学の概念」の項は日本語版用に加筆した。
- ・各論24章の生薬の説明に，薬効増強のための配合例などを日本語版用に加筆した。配合例の多くは『張志礼皮膚病臨床経験輯要』に拠っている。
- ・各論の「節」にあたる見出しでは，西洋医学的病名（別名）－〔中医病名または中国語の病名〕－英文またはラテン語の病名－（略語）の順に示した。
- ・本文中の〔 〕内および欄外の脚注は，村上元・田久和義隆によるものである。
- ・本文中の生薬名に*がついているものについては，附3「生薬一覧」に解説を掲載した。
- ・原著の誤植と思われる点については，第2版を参考に訂正したが，判断がつかなかったものについては脚注として残した。
- ・体穴については新表記を採用した。耳穴については原著に新旧名称が混在しているため，本書においてはそのまま表記した。なお，附4「耳穴分布図」は、『針灸学』第2版（人民衛生出版社，2012）を元に作成した。
- ・日本語版制作時の再編集・加筆および本書全体の翻訳のまとめは村上元が行った。
- ・各論は，村上元・田久和義隆・守屋和美・宮本雅子・赤本三不が分担して翻訳した。
- ・総論・各論第23章・各論の鍼灸に関する部分の翻訳は田久和義隆が担当した。
- ・外用療法の用語は，中国語をそのまま訳語としたものもあり，それらの意味を以下に示す。
 - 【がいふ・ちようふ外敷・調敷】新鮮な薬草を搗いて泥状にしたものや，乾燥した生薬の粉末を酒・蜂蜜・食酢で練ったものを患部に塗布する。
 - 【しつふ湿敷】生薬の煎液にガーゼを浸したものを患部に当てる。
 - 【ふちよう敷貼】滅菌ガーゼに軟膏を広げて患部に塗布する。生薬の粉末を軟膏の上に撒布することもある。
 - 【がいさん外搽】外用の粉末剤と軟膏を混ぜて瘡面を覆う方法。あらかじめ塗布した軟膏に後から粉末剤を加える方法と，軟膏に混ぜてから塗布する方法がある。黄連膏などが多用される。
 - 【がいた外搽】新鮮な植物の茎などに生薬の粉末をつけて，軽く擦りつけるように塗る。あるいは，生薬の粉末を油で丸状にしたものを薄手のラミー生地で包み，患部を軽く湿らせる。
 - 【さ搓】搓剤（薬粉を油脂で丸状にしたもの）を患部に手掌で擦りつける。
 - 【ぼく撲】軽くはたきつける。
 - 【しんほう浸泡】浸す。
 - 【がいせん外洗】洗浄する。
 - 【りんせん淋洗】薬液を繰り返しかけて洗う。
 - 【しんせん浸洗】患部を生薬の煎じ液に浸した後に洗浄する。
 - 【くんせん熏洗】患部または全身を薬液の蒸気で温め，その後浸洗法を行う。